

活動主題 「ロッカーの印象を装飾で変えよう」**活動の価値**

装飾とは、何かの外面を美しく装うことである。装飾自体は機能を持たず、視覚的に美しさを感じさせることでものや空間の印象を変え、日常生活を豊かにするものである。例えば、デスクワークや会議をするオフィスの壁面に使う色や描かれるものを考えた時、赤色や元気なキャラクターを描くことは一般的に取り入れられない。赤色は元気が出る色である一方刺激が強く、大きな面積で使えば体の脈拍や血圧も上がり集中力の欠如、イライラしやすい等の影響が出てしまう。このようなことから、オフィスでは集中力を上げたり落ち着いて考えたりできる無地に近いモノトーンやアースカラーの色を使うことで、働きやすい空間をつくっている。また、人が多く通るような駅や歩道の壁面では、色鮮やかな色を使いその土地に合ったものなどを描くことで、通行人の気持ちを華やかにしてくれる。このように装飾は、見る人に与える印象を変え、感情を変化させることができる。たくさんものに囲まれた生活の中で、目的や条件に合う装飾を選んだり、ものに施された装飾の意図を汲んだりできることは、自ら心豊かな生活を創造していくうえで非常に大切なことである。

本活動「ロッカーの印象を装飾で変えよう」は、ロッカーの開き戸に、見る人に与えたい印象に合う装飾を考え、グループで共同制作し装飾する活動である。本活動を通して、子どもは形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し、意図に応じて工夫したり見通しを持って表したりすることができるようになる。また、装飾の目的や条件などを基に、ロッカーの特徴や用いる場面などから、主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考えることができるようになる。さらに、創造活動の喜びを味わうことができるようになるため、大変意義深い活動である。

子どもの実態

本学級の子ども〇名に質問紙による調査を行った。〔日常生活を明るく楽しい空間にする美術の工夫〕について、「色や形の工夫」〇名、「作品を飾る」〇名、「作品をつくること」〇名、「分からない・無回答」〇名であった。〔身の回りのものの色によって気分が変わることがあるか〕について、「ある・たまにある」が〇名、「あまりない・ない」が〇名であり、「ある・たまにある」と答えた子どもの中には「黄色のカーテンで楽しい気持ちになる」「赤は暑く白は涼しいと感じる」「本の表紙が暗い色で読むのをやめたことがある」「ブラウン系の色は落ち着く」などの回答があった。また、〔この部屋を明るく楽しい空間にするにはどうしたらよいか〕と全面灰色の壁で殺風景な部屋の写真を提示したところ、〇名が「壁の色」について回答したが、具体的な色彩名を答えた子どもはそのうち〇名であった。また、〇名の子どもが「装飾(壁の模様、絵を飾るなど)」について回答していた。

以上の実態から、美術による工夫で空間の印象が変わることは理解しているものの、形や色彩の工夫を想起できたのは学級の〇であり、残りの〇は形や色彩の工夫を想起できていないことが分かった。また、どのような色彩にしたら感情を変えることができるのか具体的に想像できていなかったり、壁の模様や絵を飾るなどの装飾について発想することができていなかったりしている。そのようなことから、子どもたちが身近な日常生活において色彩の効果による印象の変化を実際に飾ることで体感することができ、具体的な場면을想像しながら空間の印象を変える構想を練ることができるように援助していく必要がある。

活動の指導観

本活動では、ロッカーの装飾をする活動に見通しを持ち、造形の要素が感情にもたらす効果を理解し、美的感覚を働かせて表現の構想を練り、表現の学習活動に楽しく取り組むことで、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げることができるようにすることをねらいとする。

- ・一次では、ロッカーの装飾をする活動に見通しを持つことができるように、身の回りにある装飾を鑑賞し、よさやおもしろさについて考える場を設定する。
- ・二次では、造形の要素が感情にもたらす効果を理解し、美的感覚を働かせて表現の構想を練ることができるように、描き方や色彩が異なる物を比較鑑賞し、感じる印象について考え、交流活動を通して構想を練る活動を設定する。また、表現の学習活動に楽しく取り組むことができるように、メンバーの個性を生かした役割分担をし、共同制作する場を設定する。
- ・三次では、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げることができるように、相互鑑賞したり、一定期間装飾して使用した後にアンケートを取ったりする場を設定する。

○ 子どもの学習目標

ロッカーの印象を変える装飾をグループで協力してつくることができる。

○ 教師の指導目標

ロッカーの装飾をする活動に見通しを持ち、造形の要素が感情にもたらす効果を理解し、美的感覚を働かせて表現の構想を練り、表現の学習活動に楽しく取り組むことで、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げることができるようにする。

活動計画（8時間）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	指導のねらい・内容・方法
一	1	1 日常生活から課題を設定する。 ① (1)装飾のある作品を鑑賞する。 ・装飾のよさやおもしろさ (2)学習課題を設定する。	自分たちの身の周りでもなにか装飾できないかな。	ロッカーの装飾をする活動に見通しを持つことができるようにする。
		学習課題：ロッカーの印象を変える装飾をグループで協力してつくろう。	ロッカーを装飾できそうだ。これから○○な気持ちで使えるようにしたいな。	・ロッカーの装飾をする活動に見通しを持つことができるように身の回りにある装飾を鑑賞し、よさやおもしろさについて考える場を設定する。
2 ／ 5	1	2 共同制作をする。 ⑤ (1)アイデアを出す。 ・学級のテーマの設定 ・グループの主題 ・主題から連想する絵や言葉 ・作品鑑賞 (2)構想を練る。 ・強調、単純化、省略（描き方） ・トーン（配色） ・強調色、セパレーション（配色） ・同一色相、類似色相 対称色相、補色色相（配色） ・見る人の視点 (3)作品を制作する。 ・効率のいい制作方法 ・着色の仕方 ・道具の使い方 ・制作活動の調整	○○な気持ちで使えるようにするには、どんな装飾にしたらいかな。 描き方や配色を工夫すると、表したい気持ちをうまく表すことができそうだ。 グループで協力していい作品をつくるにはどうしたらいいかな。 一人一人が持ち味を生かして、いい作品ができたぞ。	造形の要素が感情にもたらす効果を理解し、美的感覚を働かせて表現の構想を練り、表現の学習活動に楽しく取り組むことができるようにする。 ・造形の要素が感情にもたらす効果を理解することができるように、描き方や色彩が異なる物を比較鑑賞し、感じる印象について考える活動を設定する。 ・美的感覚を働かせて表現の構想を練ることができるよう交流活動を通してグループの作品を見直し再考する活動を設定する。 ・表現の学習活動に楽しく取り組むことができるように、メンバーの個性を生かした役割分担をし、共同制作する場を設定する。
	1	4 活動の振り返りをする。 ② (1)作品を飾る。 ・作品の意図と工夫 (2)活動の振り返りをする。 ・アンケート結果の分析 ・造形の要素が感情にもたらす効果 ・生活と装飾の関わり	本当に○○な気持ちで使えるロッカーの装飾になっているのかな。 形や色彩を工夫して装飾すると、使う人や見る人の気持ちを心豊かにするんだな。	表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げることができるようにする。 ・表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げることができるように、相互鑑賞したり、一定期間装飾して使用した後にアンケートを取ったりする場を設定する。

本時 美術室 第二次の1時（2／5）

本時の指導観

前時までに子どもは、日常生活における作品から、造形の要素が感情にもたらす効果を理解することができるようになってきている。そこで本時は、美的感覚を働かせ、グループで協力してロッカーの装飾の表現の構想を練る活動を行う。

主眼

造形の要素が感情にもたらす効果を基に、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ることができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 作品を鑑賞し、めあてを設定する。</p> <p>(1) 作品を比較鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件と形や色彩との調和のとれた美しさ 表現の意図と工夫 <p>(2) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> めあて：描き方や色を工夫して、主題に合うロッカーの下絵をつくろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 目的や条件と、形や色彩との調和のとれた美しさを考えることに課題意識を持つことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件と、形や色彩との調和のとれた美しさを考えることに課題意識を持つことができるようにするために、目的や条件だけを考えた作品と好きな形や色彩だけを考えた作品を比較鑑賞する。 	一斉	7
<p>2 構想を練る。</p> <p>(1) 目的や条件を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的…学級のテーマ、各グループの主題 条件…学級のテーマに沿ったもの <p style="text-align: center;">横3列×縦2行で1グループ 絵の具で制作する</p> <p>(2) 個人で構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 強調、単純化、省略（描き方） トーン（配色） 強調色、セパレーション（配色） 同一色相、類似色相 対称色相、補色色相（配色） <p>(3) グループで交流しながら構想を練る。</p> <p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件と形や色彩が調和のとれた美しさになっているか 見る人が共通に感じる感覚 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> どれかの案に決める 複数の案を合体させる 新しい案をつくる 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 造形の要素が感情にもたらす効果を基に、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ることができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 造形の要素が感情にもたらす効果を基に、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ることができるように、視点や方法を確認し、既習の形や色彩の知識を活用しながら交流する場を設定する。 見る人が共通に感じる感覚を意識することができるように、ロッカー写真と合成し、使う場面を想像しながら完成のイメージを持たせる場を設定する。 活動の作品経過や思考の過程から自身の成長を実感することができるように、グループで1つの制作ボードを作り共有する場を設定する。 	一斉／個別／小集団	38
<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 他の班の下絵を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件と形や色彩との調和 様々なアイデアのおもしろさ <p>(2) 振り返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の活動の振り返り 今後の共同制作への意欲 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 様々なアイデアから、見方や感じ方を広げることができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 様々なアイデアから見方や感じ方を広げることができるように、他グループの下絵を鑑賞し、交流する場を設定する。 	一斉／個別	5

活動の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・ポスターカラーや筆の活かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 ・ポスターカラーや筆の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しを持って表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・目的との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 ・装飾の目的や条件などを基に、ロッカーの特徴や用いる場面などから主題を生み出している。 ・美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・創造活動の喜びを味わい、表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。

※知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動（・内容）	評価規準（観点：方法）	指導の個別化（手だて）
一	1 ①	1 日常生活から課題を設定する。 (1)装飾のある作品を鑑賞する (2)学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 <p>（思：ワークシート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾のある作品を鑑賞しながら、装飾の有無によって印象がどのように変わるのかを問う。
二	1 ⑤	2 共同制作をする。 (1)アイデアを出す。 (2)構想を練る。 (3)作品を制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 <p>（知：ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・装飾の目的や条件などを基にロッカーの特徴や用いる場面などから主題を生み出している。 <p>（思：ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 <p>（思：ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターカラーや筆の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しを持って表している。（知：作品、学習の様子） ・ポスターカラーや筆の活かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。（知：作品、ワークシート） ・創造活動の喜びを味わい、表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。 <p>（態：学習の様子、ワークシート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の効果を、身の回りにあるものなどに関連付けて連想しその色から感じている印象を問う。 ・自分や周りの人がロッカーを使う時にどんな気持ちになってほしいのか問う。 ・色見本カードで色を合わせながら考えたり、形の表現を変えたりして主題に合う形や色はどれか問う。 ・制作ボードと自身の進度を比較しながら今後の自分の活動について見通しを持てるようにする。 ・具体的な形や色の工夫を複数提示し、主題に合うものがどのような表現か問う。 ・制作する楽しさを共有しながら、活動する姿の良いところを伝える。
三	1 ②	4 活動の振り返りをする (1)作品を飾る。 (2)活動の振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> ・目的との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。（思：ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの作品の主題と工夫に注目しながら、どうしてそのような表現をしていると思うのか問う。

美術教育の基本を見つめなおす

-若い先生のための「美術の授業づくり」-

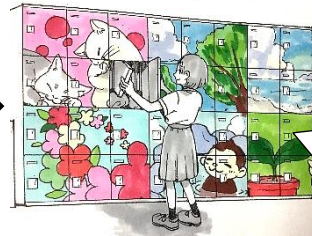
本研究を授業で実践していくために、美術の授業が生まれるまでの過程を本題材では以下のように行う。

①子どもたちの今の育ちに必要な物を誠実に見取り、題材を決定する。

いつも使うロッカー。なんだか味気ないな。もっと使っていて楽しいものにできないかな。



作品との出会い



ここに装飾を加えれば、見ていて楽しい気持ちになりそうだ。どんな絵を、どんな形や色で描けばいいかな。

②子どもたちの動きを見通し、それに対応できる支援を準備し、授業を設計する。

●グループで行う創造活動

…完成に至るまでの過程で話し合いながら、互いの個性を生かした分担をして活動を行っていく。

僕と A さんのアイデアを合体させたら、〇〇になっておもしろいんじゃない？



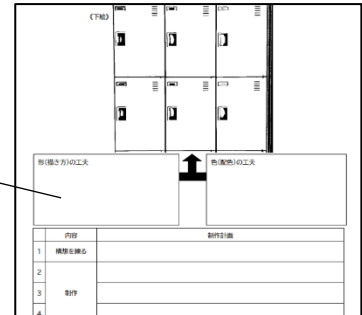
僕は絵を描くのが好きだから、下絵を描くよ。色は手分けして塗ろう。

いいね。それなら色を〇〇にしたら、この絵が楽しそうに見えていいかも。

私は絵を描くのが苦手だけど、下絵があれば色が塗れそう。色を作ってみるね。

●制作ボードの活用

グループで制作する作品の設計図にすることで、グループで目指すゴールを共有し、全員がアイデアを出しやすいようにする。また、毎時間自分たちがどのように考えて、どのような苦労を重ねて作りあげてきたのか視覚的に残していき、これまでの成長を実感することができるようにする。



③材料、道具、活動の空間、時間を確保し、効果的に配置、配列する。

●材料の確保

子どもたちの創造性を十分に活用できる材料を準備する。
本時では、マグネットシートを準備する。ロッカーに直接書かずとも装飾でき、様々な場所に飾れるようにする。

●道具の確保

個人の道具の管理、美術室内の道具の整理整頓、管理をし、制作の幅が広がるようにする。
本時では、個人の絵の具道具（年度当初購入）と、美術室内の道具を自由に使えるようにする。

●活動の空間の確保

安全に効率よく制作ができるよう広い空間を確保する。
本時ではグループの共同制作をするため、机を班にして活動し、班の位置も隣合わないよう配置する。

●時間の確保

子ども達が試行錯誤しじっくり作品を制作できるように時間の確保をする。
本時では、導入の鑑賞を簡略化し、毎時確認するテーマ等は掲示物を作成する。

④常に子どもの表現と思考を読み取り、タイムリーな支援のある50分間を展開していく。

●造形表現への支援

- ・形や色彩などが与える印象の変化が分かりやすい鑑賞作品の選定
- ・効率の良い制作方法を考える場の設定

●学習活動への支援

- ・学習用タブレットを使った絵と写真の合成
- ・制作ボードで計画を立て見通しを持つ場の設定
- ・相互鑑賞による作品への価値づけ